

2026年度 全国学力・学習状況調査の結果から見た南っ子のすがた

坂井市立三国南小学校

2026年度全国学力・学習状況調査における三国南小学校の児童の概要をお知らせします。学校では、今回の結果をもとに教育活動の工夫・改善をしていきたいと思ひます。ご家庭におかれましても、分析結果を参考にし、お子様のさらなる成長を目指して、生活習慣や学習習慣の改善にお役立てください。よろしくお祈ひします。

1 教科に関する調査結果と分析

教科	国 語											
分類と区分	学習指導要領の内容							評価の観点		問題形式		
	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等								
	全体	言葉	情報	言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識及び技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
本校と全国平均との比較	○	○						○			○	○

教科	算 数											
分類	学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式			
	数と計算 図形 測定 変化と関係 データの活用											
	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識及び技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	
本校と全国平均との比較	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	

※全国平均との比較（○…上回っている 印なし…ほぼ同等 △…下回っている）

●全体の概要

国語は、全国平均と比べてほぼ同等の力、またはそれを上回る力がついています。
 算数は、ほとんどの分野で全国平均を上回る力がついています。
 どちらの教科も、日々の学習やこれまでの学年での積み上げが発揮された結果となっています。

●各教科の調査結果の分析と授業改善策 ◎…特に優れていること ▲…さらに伸ばせること

国語 ◎文の中で漢字を正しく使う力が身に付いている。 （知識及び技能） ▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるような表現を工夫すること ▲筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること ▲引用して、自分の考えが伝わるように工夫して書き表すこと ▲目的に応じて、必要な情報を見つけること	・国語の授業だけでなく、普段の生活の中でも、様々な文章で使われている言葉の意味や表現の工夫を正確に捉えたり、資料を正しく読み取ったりできるようにします。 ・報告文やレポート形式のような文章でも、段落の構成や展開を読み取れるように、文章の相互関係や文末表現を意識できるようにします。 ・原文に正確に引用したり、引用した部分と自分の考えとの関係などを区別したりして書けるようにします。 ・お互いが書いた文章をフィードバックし合う機会を設けます。 ・情報を取捨選択したり、内容を図式化して整理したりして、必要な情報を見つけられるようにします。
--	--

算数 ◎どの領域においても、知識が習得され、技能が身に付いている。 ▲体積の意味を理解すること ▲単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解すること ▲基準量、比較量、割合の関係を捉えること	・量感を身につけるために、低学年のときから具体物を操作したり、体験活動を増やしたりします。 ・人口密度や車の燃費など、日常生活で使われている単位量当たりを求める式を考える活動を通して、定着を図ります。 ・立式したときの答えが、何を表しているのかを普段から考えたり、式が表していることを説明したりする機会を設けます。 ・基準量 1 をもとに考え、小数倍についても考えられるようにします。また、2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解できるようにします。
--	--

2 質問紙調査に関する調査結果と分析

ご家庭に関する内容

- ① 「朝食を毎日食べていますか」や「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」などの生活に関する調査から、基本的な生活習慣がしっかりと定着していることがわかりました。
- ② 普段（月～金）、スマートフォン等で SNS や動画を視聴する時間は全国や県と比べ、短いです。ご家庭でのルールの徹底や学校での啓発の取組の結果だと考えます。
- ③ 読書に関する調査では、家庭で本を読んだり、図書館を利用したりする機会が県や全国の児童と比べて少ないです。読書のよさや意義について、引き続き紹介していくとともに、図書委員の取組として集会などで啓発をしていきます。家庭でも読書する機会が増えるよう声かけをお願いします。
- ④ 家庭での学習時間や、タブレットを家庭で学習に活用する時間が短いです。自主学習を中心とした家庭学習の意義や、ICT を使った学習方法などを引き続き紹介していきます。

学校に関する内容

- ① 「学校に行くのが楽しい」と感じている児童の割合が、県や全国の平均を大きく上回っています。運動会や縦割り活動などで6年生が中心となって行事をすすめたり、グループ学習などいろいろなスタイルで学習したりしている成果だと考えます。
- ② 「先生は自分のよいところを認めてくれている」、「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人に相談できる」と考えている児童の割合が、県や全校と比べ高いですが、自己肯定感が低い児童の割合がやや多いです。継続して児童一人一人のよいところを認めつつ、集団の中での役割や責任をもつ機会を増やすなどして、自己存在感や自己有用感を育てていきます。
- ③ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」や「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目では、どちらも平均をやや下回っています。道徳や日々の学級指導を継続して行っていくます。教師からの話だけでなく、子ども同士で話し合ったり考えたりする機会を増やしていこうと思います。また、人権週間などの期間に、全校での集会や啓発活動を行います。